



「連帯社会」連続講座

主催：公益財団法人 日本労働文化財団
連帯社会研究交流センター



「連帯社会研究交流センター」は、連合、日本労働文化財団、労働者福祉事業団体、生活協同組合が法政大学と連携して設立する修士課程大学院コース「連帯社会インスティテュート」（通称：連合大学院、2015年4月開講）を支援し、連携するための機関として本年4月に発足し、連帯社会構築にむけてのさまざまな研究交流の機会を企画・実施しています。

このたび、2015年4月の連合大学院開講に向けて、「連帯社会」に関わる研究者の方々に、最近ご発表のご著書の内容を中心に問題提起をいただく連続講座を企画いたしました。第5回は、猪木武徳氏をお招きして、自由民主制社会ではなぜ連帯が必要かについて、ご講演いただくこととなりました。ご関心のある方々に広くご参加いただきますようお願い申し上げます。

なお、会場整理の都合により**参加者は先着30名様まで**とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。参加申し込み方法につきましては、連帯社会研究交流センター・ウェブサイト上で行なう方法をとらせていただきますので、「イベント・シンポジウム」<http://recss.jp/event.html>をご参照ください。

ご講演をお聞きになられる場合には、テーマに関わるご著書『働く』は、これから一成熟社会の労働を考える』（岩波書店）を事前にお読みになっていただくことをお勧めします。

第5回：デモクラシーと連帯（仮題）

日時 2015年2月7日（土）15:00～17:00（14:30開場）

場所 連合会館 3階 A会議室

講師：猪木 武徳 氏

青山学院大学特任教授・大阪大学名誉教授



猪木武徳（いのき たけのり）氏のプロフィール

1968年京都大学経済学部卒業。1974年マサチューセッツ工科大学大学院経済学博士課程修了。大阪大学経済学部教授、同経済学部長、国際日本文化研究センター研究部教授、同センター所長などを歴任、2012年より現職。最近の著書：『経済思想』（岩波書店、1987年）、『人材形成の国際比較』（共編著。東洋経済新報社、1987年）、『経済成長の果実』（中央公論新社、2000年）、『戦後世界経済史』（中央公論新社、2009年）、『経済学に何ができるか - 文明社会の制度的枠組み』（中央公論新社、2012年）、『働く』は、これから——成熟社会の労働を考える』（編著。岩波書店、2014年）など多数。

プログラム

* 来聴歓迎 *

15:00 ~ 15:05	開会挨拶
15:05 ~ 16:20	講演
16:20 ~ 16:55	質疑応答
16:55 ~ 17:00	閉会挨拶

～お問い合わせ～

連帯社会研究交流センター（ReCSS）

e-mail: info@recss.jp

URL: <http://recss.jp>

